

—コロナ禍の日常を創造的に生きるヒントが集う1ヶ月—  
公共空間から生まれる アート×SDGs 発想の社会実験プロジェクト  
「ZOU-NO-HANA FUTUREScape PROJECT 2021」開催

日程：10月2日(土)～24日(日) 会場：象の鼻パーク、象の鼻テラス、みなとみらい線日本大通り駅 三塔広場、オンライン



象の鼻テラス開館10周年記念・「フューチャースケープ・プロジェクト」(2019) 象の鼻パーク  
Photo: Ryusuke Ohno(©Arts Commission Yokohama)

象の鼻テラスは、2021年10月2日(土)～24日(日)、アートの創造性を用いて公共空間の活用方法を模索する社会実験プロジェクト「ZOU-NO-HANA FUTUREScape PROJECT 2021」を開催します。3回目となる今回のテーマは「ニュー(ノーマル+クリエイティブ)ライフ」。新型コロナウイルス感染症(COVID-19)のパンデミックにより、私たちの生活様式や価値観は激変し、世界中の人々が自分の暮らしや社会のあり方を見つめ直す機会を得ました。今回の開催では、そんなコロナ禍の日常を創造的に楽しく生きるためのアイデアを、アーティスト・市民・企業がSDGs目標を視野に入れながら模索・実験します。

象の鼻テラスは、横浜港発祥の地である象の鼻パーク内にある文化観光交流拠点です。2009年の誕生以来、様々な人や文化が出会い、つながり、新たな文化を生む場所を目指し、多彩なアートプログラムを展開してきました。

「FUTUREScape PROJECT」は、アートの創造性を用いて公共空間の新しい使い方を提案する社会実験プロジェクトとして2019年に開始。SDGs達成に貢献することも視野にいれ、「環境」「災害」「食」「健康」「教育」「花と緑」の6分野にフォーカスし、アーティスト・市民・企業など多様な主体と共に推進しています。3回目となる今回のテーマは「ニュー(ノーマル+クリエイティブ)ライフ」。コロナ禍により、私たちの生活は大きく変化しました。感染症の拡大防止がいまなお最優先の社会課題ですが、コロナ禍の日常を少しでも豊かなものにするのもまた重要な課題となりつつあります。こうした課題を踏まえ、コロナ禍の日常を少しでも創造的に、楽しく生きるためのアイデアを集積します。アイデアの集積にあたっては「ニュー(ノーマル+クリエイティブ)ライフ12カ条」を設定し、それに即して、招待アーティストによるアートプログラム、市民や企業から募集する公募プログラム、そしてコロナ禍の公共空間を考えるサミットを展開します。

招待アーティストには、高橋匡太、金子未弥、スイッチ総研、中山晴奈、藤村憲之、YOKAROの6組が決定。そのうちの1人・高橋匡太は、東日本大震災がきっかけで誕生した作品《ひかりの実》の特別プログラムを出展。震災から10年となる今年、災害の記憶を風化させず、笑顔でいられることの尊さを忘れないために、《ハローサンリク》と題し、全国各地から東北に「笑顔」を届ける参加交流型アートプロジェクトを行うことに決定しました。象の鼻テラスのほか、横浜市緑区、松山市道後地区、松戸市などで制作した《ひかりの実》を、陸前高田市、南三陸町などに届け展示するほか現地でのワークショップも開催します。

会場に集うひとりひとりのアイデアが、新型コロナウイルス感染症の脅威と共存しつつ、心身ともに豊かに生きる社会を実現するヒントとなることを期待しています。ぜひこの機会にご取材・ご掲載の検討をお願いいたします。

★本リリースに掲載の画像素材はこちらのURLからダウンロードいただけます：<https://bit.ly/3CsUduq>

## 取材に関するお問い合わせ

象の鼻テラス FUTUREScape PROJECT 広報担当 南/大越/橋本 E-mail: [press@fsp.zounohana.jp](mailto:press@fsp.zounohana.jp)  
〒231-0002 神奈川県横浜市中区海岸通1丁目  
TEL 045-661-0602 FAX 045-661-0603 WEB <http://www.zounohana.com>

## 「ZOU-NO-HANA FUTUREScape PROJECT 2021」開催概要

- イベント名：ZOU-NO-HANA FUTUREScape PROJECT 2021
- 2021 テーマ：NEW — NORMAL/CREATIVE — LIFE ニュー（ノーマル+クリエイティブ）ライフ
- 会期：2021年10月2日（土）～10月24日（日）  
公募プログラムコア期間：2021年10月2日（土）・3日（日）
- 時間：（平日・日曜）10:00～18:00（金・土曜）10:00～20:00
- 会場：象の鼻テラス、象の鼻パーク、日本大通り駅三塔広場、オンライン
- 主催：象の鼻テラス □特別協賛：株式会社 FREEing
- 特別協力：横浜高速鉄道株式会社 □協力：株式会社 中川ケミカル
- 特設サイト：<https://fsp.zounohana.jp>



本事業は横浜市のみならず文化芸術事業を支援する株式会社 FREEing の協賛を受けています。

本事業は横浜市の創造界隈拠点がこの秋市内各所で開催する「食」と「アート」をテーマとしたプログラム「Creative walkway～食とアートと街歩き～」の一環です。

### ◆ニュー（ノーマル+クリエイティブ）ライフ 12カ条

1. アートを飾る
2. 花、植物を育てる
3. 音楽を楽しむ、本を読む
4. 自然の中で過ごす
5. 大切に使い続ける
6. 誰かを思いやる、助ける
7. 省エネルギーで過ごす
8. 食べるを考える
9. 身体を動かす
10. 自分たちでつくってみる
11. 他者と対話する
12. 自分のニュー（ノーマル+クリエイティブ）ライフを考えてみよう



FUTUREScape PROJECT は、SDGs 達成に貢献することも視野にいれ、「環境」「災害」「食」「健康」「教育」「花と緑」の6分野にフォーカスし、公共空間の創造的活用に取り組んでいます。

### ◆プログラム内容

- ① ハローサンリク —東日本大震災から10年「ひかりの実」特別プログラム—  
招待アーティスト・高橋匡太による、東日本大震災がきっかけで誕生した参加交流型アートプロジェクト。  
全国各地で《ひかりの実》の制作ワークショップを行い、東北に「笑顔」を届けます。
- ② 招待作家による「アートプログラム」  
象の鼻パーク、象の鼻テラス、そしてみなとみらい線日本大通り駅三塔広場に5組のアーティストの作品を展示します。  
招待アーティスト：金子未弥、スイッチ総研、中山晴奈、藤村憲之、YOKARO
- ③ 市民や企業から幅広く募集する「公募プログラム」  
ニュー（ノーマル+クリエイティブ）ライフを表現する多彩なアイデアを募集。コロナ禍の日常を創造的に楽しむ「過ごし方」を、アーティスト、市民、企業が、10/2・10/3の公募プログラムコア期間に展開します。
- ④ コロナ禍の公共空間を考える「サミット」  
コロナ禍の公共空間のあり方を議論するサミットを開催。「公募プログラム」からユニークなアイデアの表彰も行います。

※新型コロナウイルス感染拡大の状況により、プログラムの内容を一部変更する可能性もございます。



Photo: Katsuhiro Ichikawa

### 象の鼻テラスについて

象の鼻テラスは、横浜市開港150周年事業として、2009年6月2日に開館しました。横浜港発祥の地を、横浜の歴史と未来をつなぐ象徴的な空間として整備した象の鼻パーク内に、アートスペースとカフェを併設したレストハウス（休憩所）としてつくられ、横浜市の新たな都市ビジョン「文化芸術創造都市クリエイティブシティ・ヨコハマ」を推進する文化観光交流拠点の一つです。開港当時から異文化と日本文化がこの土地で出会ってきたように、さまざまな人や文化が出会い、つながり、新たな文化を生む場所を目指し、多ジャンルのアートプログラムを開催しています。象の鼻テラスは横浜市文化観光局の委託により、スパイラル/株式会社ワコールアートセンターが運営しています。

## ①ハローサンリクー ー東日本大震災から10年「ひかりの実」特別プログラムー



Photo: Mito Murakami

《ひかりの実》は、2011年の東日本大震災をきっかけに、アーティスト高橋匡太が考案した参加型アートプロジェクトです。果物を育てるときに使われる「果実袋」に参加者が笑顔を描き、LED電球を詰めることで色とりどりの笑顔が夜景を彩ります。2011年10月に開催された、「スマートイルミネーション横浜 ※」で初発表され、同年12月には、この展示を見た東北関係者からの連絡がきっかけで、陸前高田市と横浜で《ひかりの実》の交換プロジェクトが展開されました。クリスマスに横浜市の小学生たちが作った500個の《ひかりの実》を陸前高田市の仮設住宅に届け、年末年始に陸前高田市の子どもたちが作った《ひかりの実》も加え、約3000個の《ひかりの実》を横浜・山下公園に展示、NHKの「ゆく年、くる年」でも放映されるなど、大きな話題をよびました。その後《ひかりの実》は横浜から全国に広がり、累計10万人以上が参加、小学校の美術教科書（開隆堂出版）にも掲載されています。

そして東日本大震災と《ひかりの実》の誕生から10年を迎えた2021年。震災の記憶を風化させず、笑顔でいられることの尊さを忘れないために、《ハローサンリクー》と題し、全国各地から東北に「笑顔」を届ける参加交流型アートプロジェクトを行うことに決めました。象の鼻テラスのほか、横浜市緑区、松山市道後地区、松戸市などで制作した《ひかりの実》を、陸前高田市、南三陸町などに届け展示するほか現地でのワークショップも開催します。

※スマートイルミネーション横浜…東日本大震災が起きた2011年にスタートした国際アートイベント。震災を機に注目が増した太陽光発電や蓄電、LEDなどの省エネルギー技術とアートを組み合わせて、新しい時代の横浜の夜景を提案した。

<下記の会場での取材、調整いたします。他会場の開催概要はFUTURESCAPE PROJECT 特設サイトで順次発表します>

開催エリア	ワークショップ	インスタレーション
横浜（象の鼻テラス）	10/2(土),3(日) 象の鼻テラス	10/2(土)~24(日) 象の鼻パーク
陸前高田	9/26(日) 陸前高田市まちなか広場	9/26(日)~10/23(土) 陸前高田市まちなか広場



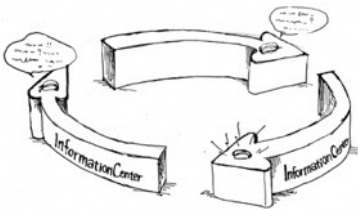
### 高橋匡太（たかはしきょうた）

美術家。1970年京都生まれ。京都在住。1995年京都市立芸術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了。光や映像によるパブリックプロジェクション、インスタレーション、パフォーマンス公演など幅広く国内外で活動を行っている。京都市京セラ美術館、東京駅100周年記念ライトアップ、十和田市現代美術館など建築物へのライティングプロジェクトは、ダイナミックで造形的な光の作品を創り出す。多くの人とともに作る「夢のたね」、「ひかりの実」、「ひかりの花畑」など大規模な参加型アートプロジェクトも数多く手がけている。1995年キリンコンテナポラリーアワード'95最優秀作品賞、グッドデザインアワード2005（環境デザイン部門）、DSA日本空間デザイン賞2015優秀賞、照明デザイン賞2018審査員特別賞、第28回AACA賞優秀賞/30周年記念美術工芸賞、第30回日本建築美術工芸協会賞AACA賞、2020年照明普及賞、第34回京都美術文化賞など受賞多数。

## ②招待作家による「アートプログラム」

### 金子未弥《2点のinformation centerが与えられたとして、実在しない地点cを求めよ》

電話越しの会話などを通じて、自分の記憶する都市の風景を絵に残し、誰かの記憶の風景を持ち帰る参加型作品。ここを訪れた人が記憶を提供する Information Center。記憶を提供した人は、誰かが提供した記憶にまつわるポストカードをお土産に持ち帰ることができます。旅先での出来事を現地のポストカードに書き留めて誰かに送る。そこに書かれる何気ないストーリーこそ、実はその場所のイメージを作り出しているのかもしれない。普段は目に見えない、他者の記憶に耳を傾けてみましょう。もしかしたら思いがけないほど美しいストーリーが隠れているかもしれません。あなたは何を思い出し、ポストカードに描きますか？



金子未弥 (かねこみや) …1989年神奈川県生まれ。2017年多摩美術大学大学院美術研究科博士後期課程修了、博士号(芸術)取得。2017年より黄金町AIRに参加。人々の場所に関する記憶から「都市の肖像」を導くプロジェクトや作品制作を行う。工業用資材を素材として用いたインスタレーションや、ワークショップを行って複数の参加者の記憶や経験を辿りながら見えない都市の姿を顕在化させる作品など、多様な手法で都市を追求した作品を発表している。主な受賞歴に「Tokyo Midtown Award 2017」Grand Prize、「ART IN THE OFFICE 2018」。

### スイッチ総研《象の鼻スイッチ2021》ほか

スイッチが押される度にあちこちで現れては一瞬で去ってゆく演劇たち。「お互い大変ですがこの一瞬でも出会えたあなたの健康と幸運を祈ってます！」と挨拶のような「がさつなお祈り」のような作品を目指した2020年に続き、今年も象の鼻パークの明るく開かれた景色の力を取り込み、一瞬心がゆるむクレイジーでピースフルな演劇を出現させます。さらにスイッチの子ども向け演劇ワークショップや、スイッチを押さずとも始まる小さな物語のような風景を出現させる《吹きさらし!!手を変え品を変え劇場 引き続きトライアル&エラー公演》、パーク内を歩いたり小舟に乗りながら体験する音声作品《きくたびプロジェクト》も展開予定。様々な形で象の鼻テラスに出現します。



スイッチ総研 (すいっちそうけん) …俳優の光瀬指絵(ニッポンの河川)、大石将弘(ままと | ナイロン 100°C)により2015年結成。「スイッチ」=「鑑賞者がスイッチを押すと始まる3秒~30秒の演劇」を上演する団体。その場所の風景、歴史、建造物などを一瞬の物語に取り込むサイトスペシフィックな作品づくりが特徴。各地の芸術祭で地域の俳優や市民と共にその場ならではのスイッチを開発上演し好評を得ている。近年は子供との協働制作、教育機関に於けるWS、フェスティバルディレクターなど活動の幅を広げている。モットー「大人げないことを大人のやり方で」。

### 中山晴奈《拡張ニュー屋台》

屋台は都市の台所の拡張であり、家事を共有する文化です。屋台文化が花咲いた300年前の江戸にも、出稼ぎの単身居住や住居の狭さ、忙しくて料理する時間がないなど今と変わらない悩みに溢れていました。屋台はそれらを解決する、小さな商売の場所であり装置です。2021年の私たちも様々な暮らしのしんどさを抱えています。さらに豊かさの基準が大きくシフトし、これまで負担だったことがよりしんどく感じたり、ちょっとしたことがかけがえのない幸せだったと気づいたり、日々発見もあるでしょう。拡張ニュー屋台は、それら社会の悩みや喜びを仮想の屋台に仕立て、共有する実験です。



中山晴奈 (なかやまはるな) …1980年千葉県生まれ。東京藝術大学大学院先端芸術表現修了。在学時より食べ物を使った美術表現を研究する。まちづくりNPOや建築設計事務所の勤務後、食をコミュニケーションツールにしたデザインを行政や生産現場と連携して行う。ココイック(伊勢丹新宿店)の監修、東北食べる通信(花巻市)の連載をはじめ、フードスケープ展(アーツ前橋、2016年)、みちのおく芸術祭山形ビエンナーレ(東北芸術工科大学、2016年)、横浜パラトリエンナーレ(2017年、2020年)等のアート分野でも活動中。



「モダンファート 第2号 美しい国 そごつ広場」  
伊藤ガビン、2020年より 絵 ハギー-K



### 藤村憲之《光ある航海》

クルーズとイルミネーション作品を一体化させた体験型プログラム。もし私たちがボートのような乗物と一体の(人間たち+マシン)になって横浜港の海へ乗り出したら、どんな出来事が起こるのでしょうか？2017年に象の鼻テラスで制作した光を通して人が繋がる作品から発展し、今回は、夕刻の港に光と共にボートで泳ぎ出す体験を作り出します。短い航海の間に私たちの身体信号とボートが波を切るスピードが一体となり、まるで港に住む大きな生物のように光りはじめます。海上の空間には見えない仕掛けがあり、通り過ぎることでその存在が見えてくるはずですよ。



藤村憲之 (ふじむらのりゆき) …街の空間での人と人との思いがけない出会いをテーマに活動。素材と技法は電子装置から紙と鉛筆まで幅広く、街の広場での展示や、ギャラリーやカフェでのワークショップなど、その場所の様子を変える作品の在り方にこだわっている。2017年の横浜スマートイルミネーションアワード屋外展示部門優秀賞受賞、パブリックアート作品《RemoteFurniture》は英国Victoria and Albert美術館、オーストリアのアルスエレクトロニカセンターなどで展示。文化庁派遣芸術家在外研修等で海外で活動後、デザインとテクノロジーに携わりながら作家活動を続ける。

### YOKARO《NARIWAI in 象の鼻》

「NARIWAI」は、子どもがつくる子どものためのおしごとメディア。子ども取材班が生業(=ナリワイ)を持つ大人に取材して「仕事」や「お金」について考えます。その活動の場を象の鼻テラスに拡張！象の鼻テラスゆかりのゲストを招いた「公開取材」や取材記事の展示を行います。「どんな大人になりたかったですか？」「どうしたらその仕事ができますか？」「働くことについてどう思いますか？」将来なんてまだ先だけど、まずは「知る」ことから始めてみよう。



YOKARO (よかる) …「子どもが主体の保育と教育」をテーマに、アクティブラーニングの要素を取り入れながら子どものための活動の場づくりを行っている。大切にしているのは、子どもが主役となつてのびのび活動できること・頭と心をフルに動かしながら学ぶこと・園とも学校とも習いごととも違う環境での交流を生むこと。代表は、保育士とライターを経験を持つ吉川ゆゆ。

